

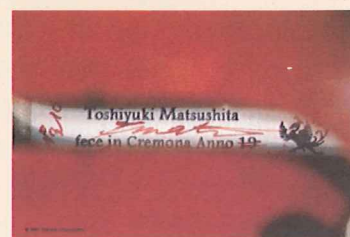
徒弟制度の中で製作者の手で作り出すもの、それがヨーロッパの、特にイタリアにおいては顕著な伝統であったわけですが。しかし、産業革命の波が楽器製作の世界にもおよび、機械で精密なものが量産できるということは、いわば、伝統を大きく覆す大革命でした。政吉には自身の工場製品に対し、日本の先端技術は世界に匹敵するという自負があったのだと思います。その誇るべき工場製作の楽器を献上したのでしょう。

一方、私としてはやはり政吉自作のヴァイオリンを見たいという思いを捨てきれずにいました。しかし、なかなかみつからず、半ば諦めかけていたところ、高松宮殿下使用のフルサイズの楽器が現存し、しかもそれは、高松宮殿下より皇太子殿下に贈られていることがわかりました。学習院大学史料館客員研究員である皇太子殿下に持参していただき、私達が拝見したものは、まさしく1926年製の鈴木政吉自作のヴァイオリンだったのです。

31年前、私はヴァイオリン製作に人生を賭けてみようと25歳で単身、クレモナに渡りました。そんな私には初めて自分の手でヴァイオリンを作り出した1887年当時の青年政吉の思いが、あの当時の自分に重なります。日本の近代化のただなかを生きた鈴木政吉は、一生涯をかけてヴァイオリンの工場製作の道を開きました。現代を生きる私も、失われたクレモナの伝統、アマティ、ストラディヴァリ技術を探求しながら、より豊かな音色美を持つ楽器の

製作に心身を込めて取り組んでおります。

そして、鈴木政吉には始まり現代に至る日本人のヴァイオリン製作者の軌跡を残し、伝えていくこと、それは楽器製作の未来の発展に繋がっていくことだと私は強く信じております。



(松下敏幸)

#### マエストロ・弦楽器製作者 松下敏幸氏 プロフィール

1957年生まれ。1979年より弦楽器修理・製作を志し、1982年イタリア、クレモナに渡る。  
ロンバルディア州立学校、クレモナ国際ヴァイオリン製作学校卒業。  
後スイス・チューリッヒの音楽店MUSIC HUGにてオールド楽器の修復を学ぶ。  
1988年クレモナ・Stradivari 製作コンクールヴァイオリン・チェロ、各銀メダル受賞。  
1996年アメリカVSAヴァイオリン国際製作コンクール、ヴァイオリン1位、金メダル受賞。  
1998年よりクレモナ国際ヴァイオリン製作学校、マスターコース最終学年に日本人初めてのマエストロとして招かれ生徒の指導にあたる。  
2004年フランス、パリ Etienne Vatelot 国際製作コンクール、ヴァイオリン音響最優秀賞。ヴィオラ2位、銀メダル受賞。  
2006年クレモナ、Antonio Stadivari 国際製作コンクール、ヴィオラ2位、銀メダル受賞。

現在で修理・調整した代表的な楽器  
ストラディヴァリ "PARK" 1717年、同じく "LEDY LEY" 1713年、及びグアルネリウスデル・ジェズ "JEAN BECKER" 1732年、ジョゼフ・グアルネリウス 1689年チェロ。

#### 次回展覧会のお知らせ

学習院大学史料館・東洋文庫・永青文庫 3館連携展示

### 「東洋学の歩いた道 アジアを学ぶ—近代学習院の教育から」展

【会期・会場】 ・平成25年10月5日(土)～12月21日(土)  
月～土曜日 10:00～17:00  
日曜・祝日、10月17日(木) 閉室  
・北2号館1階 学習院大学史料館展示室  
・入場無料  
・ギャラリートーク：毎週土曜日12:00～

【主催】 学習院大学  
【企画】 学習院大学史料館・学習院大学東洋文化研究所  
【運営】 学習院大学学長付国際研究交流オフィス  
【共催】 東洋文庫・永青文庫

#### ミュージアム・レター第22号

2013年5月20日発行  
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1  
電話 03(3986)0221  
内線 6569  
FAX 03(5992)9219

Gakushuin University Museum of History  
学習院大学史料館

● ホームページもご覧ください

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>

